

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 次の記述のうち、「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」の内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者保健福祉手帳制度を創設し、精神障害者も障害福祉サービスを利用できるよう求められている。
- 2 精神障害者居宅介護等事業を創設し、ホームヘルプサービスを充実するよう求められている。
- 3 条件が整えば退院可能とされる72,000人の入院患者について、退院・社会復帰を目指すことが初めて指摘され、総合的な取組が求められている。
- 4 市町村を中心に、精神障害を含め障害種別、疾病を超えた一元的なサービスに統合し、サービス利用の利便性を高めることが求められている。
- 5 相談支援体制やケアマネジメントにおける医療・福祉の連携等、地域生活支援体制を充実・強化することが求められている。

(注) 「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」とは、2009年(平成21年)9月にとりまとめられた「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会報告書」(厚生労働省)として公表されたものである。

問題 37 次の記述のうち、精神保健福祉士が行う権利擁護活動の代弁機能として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライエントの肩や腕に新しいあざがあるのを見つけたため面談を設定し、クライエントの気持ちに寄り添いながら、状況把握に努めた。
- 2 病棟看護師から家族の面会日時が変更になったとクライエントに伝えてほしいと言われたため、面接時にクライエントに伝言した。
- 3 障害年金の申請に行くクライエントの依頼を受けて、市役所の担当者にクライエントの来訪の目的、意図を事前に電話で伝えた。
- 4 被虐待障害者が保護されたときに備えて、自立支援協議会のメンバーと協働して一時保護できる環境の整備について自治体に働きかけた。
- 5 地域活動支援センターのプログラムの一つとして、障害者の権利に関する条約についての学習会を開催し、精神障害者の権利について再確認した。

問題 38 精神障害者等への支援機関に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 児童相談所では、放課後等デイサービス事業を行っている。
- 2 福祉事務所では、退院促進や地域移行・地域定着支援を行っている。
- 3 都道府県社会福祉協議会では、精神障害者保健福祉手帳の申請受付を行っている。
- 4 地域包括支援センターでは、包括型地域生活支援プログラム(ACT)を行っている。
- 5 公共職業安定所(ハローワーク)では、リワークプログラムを行っている。

問題 39 精神科医療機関の精神保健福祉士が行う支援に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 支援は、医師や看護師の指示により開始する。
- 2 インテークでは、関係づくりを基軸とした情報収集を心がける。
- 3 アセスメントは、診断・治療に役立つ疾病や障害の現状把握を目的にする。
- 4 支援計画は、精神保健福祉士があらかじめ設定した支援課題に基づき立案する。
- 5 介入では、家族や社会資源との関係を調整するために、ジェノグラムを用いる。

問題 40 就労移行支援事業所に勤務するF精神保健福祉士は、来週、地域の企業に就職が決まったGさんと面接を行った。Gさんは、面接を通して自分の変化を振り返り、働くための生活習慣を身につけられたことと、自分に合った仕事を見つけるという目標を達成できたことに満足していた。しかし、サービスを受け始めたころのプログラムが単調で物足りなかったことと、就労までに時間がかかり過ぎたことは残念だったとも述べた。F精神保健福祉士は、Gさんにどのような支援があったらより早く就労できたと思うか質問し、Gさんが答えてくれた内容を次の支援にかしていくことを約束した。

次のうち、この面接を実施した支援過程として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 モニタリング
- 2 再アセスメント
- 3 エバリュエーション
- 4 終結
- 5 アフターケア

問題 41 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うストレングス視点に基づく援助として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士が、クライアントにストレングスを身につけさせる。
- 2 クライアントの希望や願望を援助目標に反映させる。
- 3 精神保健福祉士が、援助過程の方向性や内容を決定する。
- 4 援助において、精神保健福祉士が主に活動する場は、地域である。
- 5 資源を活用する際には、一般的な資源よりも精神保健福祉サービスを重視する。

問題 42 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うグループワークとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神科病棟では、グループ活動におけるメンバーの発達や成長を他の専門職とともに評価する。
- 2 地域活動支援センターでは、プログラムを参加メンバーの主治医が指示した内容にする。
- 3 就労継続支援B型事業所では、グループワークに活用する資源を施設内にとどめる。
- 4 保健所デイケアでは、全員にグループへの参加を義務づける。
- 5 精神科デイケアでのグループワークでは、同一メンバーで期間を限定せずに活動を継続し、安心感を保持する。

問題 43 H精神保健福祉士は、2週間前に再入院した統合失調症のJさん(29歳、男性)の母親との面接で、次のようなことを聞いた。入院前、母親は「1日も早く復職できるように頑張りなさい」と毎日のようにJさんを励ましていたらしく、「病気に甘えているとしか思えない。なぜいつまでもごろごろしているのか」と言っていたとのことであった。また、母親は「私の育て方が悪くて病気になったのでしょうか」といらだちと不安を覚えている様子であったため、H精神保健福祉士は、母親にある提案をした。

次のうち、この面接の時点でH精神保健福祉士が提案した母親への支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 家族心理教育プログラムへの参加
- 2 訪問看護の利用
- 3 元気回復行動プラン(WRAP)の紹介
- 4 ホームヘルプサービスの利用
- 5 地域活動支援センターⅢ型の利用

問題 44 「障害者総合支援法」における精神障害者の地域移行支援に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 一般病床に1年以上入院している者も利用できる。
- 2 特別養護老人ホームに入所している者も利用できる。
- 3 障害者支援施設に入所している者も利用できる。
- 4 「医療観察法」に基づき、指定医療機関に入院している者も利用できる。
- 5 グループホーム(共同生活援助)に入居している者も利用できる。

(注)1 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

2 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 45 精神保健福祉士がかかわる地域ネットワークに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ネットワークを構成するメンバーは、専門職でなければならない。
- 2 インフォーマルネットワークより、フォーマルネットワークを重視する。
- 3 ネットワークを構成するメンバーの間では、対等性を保つようにする。
- 4 マクロレベルでは、利用者とその家族に働きかけ、ネットワークを形成する。
- 5 既存の社会資源よりも、新たな社会資源を用いて、ネットワークを形成する。

問題 46 精神障害者のケアマネジメントのモデルに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「総合型」は、「包括型」とも呼ばれており、医学モデルに基づくケアマネジメントを行う。
- 2 「リハビリテーション型」は、ケアマネジャーと利用者との治療関係を重視し、心理的アプローチを中心とする。
- 3 「臨床型」は、病院から地域移行をする利用者を対象とし、医療専門職がケアマネジャーになり実施する。
- 4 「ストレングス型」は、利用者の能力の向上のための技能訓練を中心にした支援が行われる。
- 5 「仲介型」は、利用者とサービスを結びつけることを中心とし、サービスの^{あつせん}調整を主な機能としている。

問題 47 精神保健福祉士の地域を基盤とした支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域における精神科救急サービスのシステムとして、包括型地域生活支援(ACT)チームを活用する。
- 2 精神障害者と市民との橋渡しを行う存在として、精神保健福祉ボランティアの養成を行う。
- 3 専門職による支援を補完するものとして、ソーシャルサポートネットワークを活用する。
- 4 谷中輝雄が提唱した「ごく当たり前の生活」を実現するために、一般的な生活習慣の獲得を目指したプログラムを実践する。
- 5 コミュニティソーシャルワークの視点に立って、地域の問題点を明らかにする地区診断を行う。

問題 48 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うソーシャルインクルージョンの理念に基づいた地域精神保健福祉活動として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者への福祉サービスの情報提供に際し、病状が改善していることを前提とする。
- 2 精神障害のあるホームレスの支援に際し、制度の活用を控え自助を中心とする。
- 3 精神障害のある生活困窮者の支援に際し、精神科病院への入院調整を進める。
- 4 グループホームの設立に際し、町はずれの土地を探しコンフリクトを防ぐ。
- 5 自殺予防に際し、プライマリケアにおけるゲートキーパーを育成する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

〔事例〕

Kさん(23歳、男性)は、この5年間、コンビニに買い物に行く程度で、「仕事はするよ」と口にはしているが、自室でテレビを見たりパソコンゲームをしたりする生活をしてきた。ひきこもるようになったのは、高校時代に仲の良かった友人とのトラブルがあり、それ以降登校しなくなってからである。Kさんは小学生のころ両親が離婚し、現在は母親と3歳年上の兄との3人暮らしである。母親とは日常会話はしているが、ひきこもるようになったきっかけや将来のことなどについて話すことはなかった。

母親は何とかしなければと悩んでいたが、県の精神保健福祉センター(以下「センター」という。)で、ひきこもっている当事者や家族への個別相談、家族のセルフヘルプグループ、当事者を対象としたグループワークなどの支援が実施されていることを知り、そのことをKさんに話した。Kさんがその話に対し少し関心を示したように思えたため、母親はセンターに相談に行き、L精神保健福祉相談員が面接を担当した。(問題 49)

その後、母親はL精神保健福祉相談員との面接を継続し、センターで月1回開催されている「ひきこもり家族の会」というセルフヘルプグループに参加するようになった。このグループに参加するようになってからの母親は、表情も明るくなりKさんと今後のことについても少しではあるが、話すことができるようになってきて、Kさんへの直接支援をしてほしいと依頼した。(問題 50)

ところが、数日後に母親から電話があり、「理由は分からないが、Kは私との会話も少なくなり自室にこもりがちになってしまった。センターのことを話すと、自分で仕事を探すから放っておいてくれ、と話に乗ってこない」とのことだった。Kさんがセンターに通うようになることを期待していた母親は、落胆して「どうしてよいか分からない」とため息をついた。そのため、母親も参加してケア会議を開き、状況把握と今後の支援の方針を確認した。(問題 51)

問題 49 次の記述のうち、この時点でのL精神保健福祉相談員の母親への対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Kさんを説得して一緒に来所するよう伝えた。
- 2 早期に解決できる可能性が高いと励ました。
- 3 精神科の治療を受けた方がよいとアドバイスした。
- 4 センターの支援のプログラムについて説明した。
- 5 障害者就業・生活支援センターに相談に行くよう勧めた。

問題 50 次の記述のうち、母親からの依頼に際して、L精神保健福祉相談員が行う対応として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 Kさんと会うために家庭訪問する。
- 2 母親の変化を一緒に振り返る。
- 3 直接支援を始めるのはまだ早いことを伝える。
- 4 すぐに当事者を対象としたグループワークへ参加するよう勧める。
- 5 母親への支援から兄への支援に切り替える。

問題 51 次の記述のうち、ケア会議で検討された支援の方針として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 センターの母親への支援を継続する。
- 2 Kさんへの支援は、母親に任せる。
- 3 Kさんに心理療法を行う機関を紹介する。
- 4 Kさんにアルバイトをするよう勧める。
- 5 Kさんを世帯分離して、生活保護を申請するよう提案する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題2)

次の事例を読んで、問題52から問題54までについて答えなさい。

[事例]

Mさん(47歳、男性)は、統合失調症で精神科病院に約7年入院していた。Mさんの家族は76歳になる母親だけである。アパートの収入もありなんとか暮らしてきた。Mさんは、軽度の精神症状が残存していたものの、5年前から任意入院となり、社会生活技能訓練(SST)などにも参加していた。精神科病院の精神保健福祉士がMさんの母に退院後の同居について何度か打診したが、入院前に暴力を振るわれたことなどを理由に同意が得られずにいた。このようなとき、Mさんは精神科病院の精神保健福祉士から精神障害者の地域移行支援事業があることを聞き、利用を希望した。そこで、V相談支援事業所からN精神保健福祉士が、地域移行推進員として精神科病院に訪問に行くことになった。N精神保健福祉士は自己紹介と自分の役割を説明した後、Mさんの緊張をほぐすように配慮しつつ、まず必ず聞いておくべきことを中心にMさんから話を聞いた。(問題52)

この訪問の後、N精神保健福祉士は2週間に一度Mさんを訪問することとなった。3回目の訪問の際、N精神保健福祉士はMさんから「母に会って自宅への退院を許してくれるよう頼んでほしい」と言われた。この時点でN精神保健福祉士はMさんの母親とは面識がなかった。N精神保健福祉士は、Mさんから必要と思われる情報を得た後、Mさんの依頼に対する自分の考えを述べた。(問題53)

6回目の訪問のとき、Mさんは「退院後、一人暮らしは不安だ。障害年金だけでは生活できそうもないし、すぐ仕事に就く自信もない」と話した。この発言を受けてN精神保健福祉士はMさんに、退院後の生活のプランを具体的に進めるための提案をした。(問題54)

その提案を受け入れたMさんは、その後も、N精神保健福祉士ら支援者と相談しながら、退院後の生活上の課題や不安を一つずつ解決していき、支援開始後、約半年で退院した。Mさんは現在、「母親ともいい関係に戻れた。N精神保健福祉士の支援なしに今の自分の生活は考えられない」と話している。

問題 52 次の記述のうち、この時点の面接でN精神保健福祉士が、Mさんから聞いておくべき内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Mさんに現在残っている幻覚や妄想の内容とその程度。
- 2 Mさんの生活能力あるいは生活支援の必要性。
- 3 Mさんの退院に対する考えと退院後希望する生活の内容。
- 4 Mさんの退院に向けて、家族から受けられる支援の内容。
- 5 MさんがN精神保健福祉士に対して抱いた印象。

問題 53 次の記述のうち、N精神保健福祉士がMさんに話したこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Mさんの依頼は、地域移行の支援者としての私の役割の範囲を超えるものであるので、もう一度病院の精神保健福祉士にお願いしてみしてほしい。
- 2 私は、これまでのいきさつや母親の年齢から考えて、Mさんが母親と同居するのは無理であると思うので、別の退院先を考えよう。
- 3 私はMさんの母親とは面識がないので、院内の社会生活技能訓練の場を利用して、Mさんが自分の気持ちを自分で伝える力をつける方が話が早く進むと思う。
- 4 私が直接依頼するより、Mさんと母親が直接話し合った方がいいので、Mさん自身が母親に退院後の同居の希望を伝えやすい環境を作る支援を行いたい。
- 5 私は自分で判断する立場にないので、本日Mさんが話した希望を、所属するV相談支援事業所の上司に報告して、次回会うときに回答する。

問題 54 次の記述のうち、N精神保健福祉士がMさんに提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 公共職業安定所(ハローワーク)の障害者の受付窓口に行き、求人状況を確認してみたらどうか。
- 2 一人暮らしは難しいので、グループホームを見学してみたらどうか。
- 3 精神障害者のピアサポーターを紹介するので、その人の話を聞いてみたらどうか。
- 4 障害年金を増額できないか、社会保険労務士の事務所で相談してみたらどうか。
- 5 社会福祉協議会の日常生活自立支援事業の利用を考えてみたらどうか。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。

[事 例]

地域活動支援センター I 型の W センターは、人口 13 万人の地方都市の商店街の一角にある。2 年前の開設に際しては、商店街の人たちから施設設立に反対する意見があがり、市や市議会議員らの尽力で何とか開設にこぎつけたという経緯がある。同じ商店街には、W センターが運営している X 喫茶店があるが、地域住民の利用はほとんどない。W センターの A 精神保健福祉士は、X 喫茶店や W センターの活動をもっと地域に根づいたものにしたいと考え、この地区を担当する民生委員の B さんと話し合い、まずは住民のニーズを把握してみようということになった。そこで A 精神保健福祉士は、様々な立場の地域住民に一堂に集まってもらい意見を聞く機会をもつことにし、利用者や B さんの協力を得ながら準備を重ねた。当日は、A 精神保健福祉士がファシリテーターの役割を担い、参加者に互いの考えを尊重し合いながら、自分の暮らす町についての意見を自由に出し合ってもらった。(問題 55)

参加した地域住民からは、交流の機会となっていた商店街の祭りが数年前から開催されなくなったことや、住民同士が知り合い、つながる場が少なく残念だという意見が多く出された。そして最後には、地域の子どもや大人と一緒に楽しむ、障害者との交流の機会にもなるようなイベントを開催したいという意見でまとまった。そのとき、参加者の 1 人から、X 喫茶店を会場にした絵画教室の開催と、その作品を商店街に展示するまちかどギャラリーの提案があり、参加者から賛同の声があがった。そこで A 精神保健福祉士は、参加者を中心に実行委員会を組織化した。数回の話し合いと準備を重ね、約 3 か月後に絵画教室と商店街でのギャラリーが開催されたが、多くの人が商店街に足を運び盛況だった。このイベントは、その後も継続し定期的に開催され、地域住民同士や、住民と障害者との自然な交流が生まれる場となった。(問題 56)

この地域では、絵画教室とまちかどギャラリーが継続的に開催されるにしたがって、住民同士の付き合いや交流の機会が増えていった。そして、徐々に住民同士の信頼感や結束力が高まり、様々な活動が生まれた。(問題 57)

問題 55 次のうち、この場面でA精神保健福祉士が行ったニーズ把握の方法として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 半構造化インタビュー
- 2 パブリックコメントの募集
- 3 アンケート調査
- 4 フィールドワーク
- 5 ワークショップ

問題 56 次のうち、この活動においてA精神保健福祉士が果たした機能として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 セルフヘルプグループ
- 2 広報などによる情報提供
- 3 地域ケアシステムの構築
- 4 ソーシャルビジネスの創設
- 5 社会資源の開発

問題 57 次のうち、この活動を通して地域に形成されたものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルキャピタル
- 2 ソーシャルファーム
- 3 ソーシャルプランニング
- 4 ソーシャルポリシー
- 5 ソーシャルアクション

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

〔事例〕

Cさん(23歳、女性)は、高校3年生の春ごろから、「周りから悪口をいわれる」「死にたい気分になる」と話すようになり、精神科初診時に統合失調症と診断された。卒業後は予備校へ通学したが、幻聴が強く、自殺企図があり、3か月間入院した。入院を契機に予備校を退学し、退院後は自宅学習を続けながら、メロン・梨・トマトなどを栽培する実家の農業を手伝っていた。両親、祖母と同居し、きょうだいはいない。

集中力の低下、幻聴体験が継続し、Cさんは大学進学を断念。20歳の春からは実家の農業でトマト栽培を担当し、給料をもらうようになった。月2回の外来受診を継続し、ときに幻聴体験、対人緊張が高まる場面でのめまいや動悸、自傷行為があるものの、入院するまでには至らなかった。家事を母親と分担し、仕事の合間には、中国語講座に参加したり、好きなミュージカルの公演やコンサートを楽しんでいた。

21歳のとき、Cさんは「毎年主治医が変わっている。いろいろゆっくり話ができる相手がほしい」と希望し、主治医からD精神保健福祉士に継続面接の依頼があった。初回面接で、Cさんは「時々、ふっと死にたくなるときがある」「農業には自信ができてきた」「家族に心配かけたくない、病気のこといろいろ話せない」「同級生に会うと、やはり進学したかったと思う」「人と一緒の場は緊張して疲れる」「仕事や生活も、このままでいいのかと考えてしまう」と語った。(問題 58)

半年後、Cさんは、町内会の行事に母親の代理で参加することになり、幻聴体験、希死念慮が強まり、2か月間入院した。自宅への退院に際し、「人付き合いが心配。でも、気楽に話ができる場があるといい」というCさんに、D精神保健福祉士はデイケアでのグループ活動へ参加することを提案した。(問題 59)

その後1年が経過し、Cさんの病状はずっと安定している。面接の中で「トマト栽培は出荷を任されるようになった。育てることが面白くなってきた」「中断していた中国語講座に行き始めた」「また悪くなるかもという不安はあるけど、デイケアの時間を他のことに使って、自分のできることを広げてみたい」と話した。(問題 60)

問題 58 次の記述のうち、この時点で、D精神保健福祉士が行うCさんへの支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自殺の話には触れないようにする。
- 2 農業以外の就労可能性を検討する。
- 3 進学に再チャレンジするよう励ます。
- 4 家族からの独立を目指し、単身生活の訓練を始める。
- 5 安心して思いを語ってもらえる関係をつくる。

問題 59 次のうち、D精神保健福祉士がこの活動を勧めた目的として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 服薬管理
- 2 仲間づくり
- 3 就労訓練
- 4 生活スキルの獲得
- 5 対人ストレスへの対処方法の習得

問題 60 次の記述のうち、この時点で、D精神保健福祉士が行うCさんへの支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自立支援給付を利用するためのアセスメントをする。
- 2 病状の変化が心配なので、このまま様子を見る。
- 3 農業をもっと学ぶことができる場や機会を探す。
- 4 当事者活動に積極的に参加するよう勧める。
- 5 両親の意見や意向を優先する。